

香川大学教育学部からの出前講座⑦（1年） を実施しました

10月30日、香川大学教育学部から 恵羅 修吉 先生をお招きし、「顔を見る、顔からみる」という題で、教育創造コースの1年生にご講義いただきました。



顔に関わる心理学の研究のお話をします。心理学って楽しいよというのが伝わればいいなあと思っています。

「顔」がわかるということは
個体識別だけでなく、その人がどのような状態にあるかまで分かることです。コミュニケーションをとるのにとても大切です。



顔認知のテストを作ってやってみました。正答率と年齢の関係から、人の判断能力のピークは30歳ちょっとという結果が出ています。

人ではない物が
人に見えることを「パレイドリア」と言います。



発達性相貌失認と言って、人の顔が分かりづらい人達がいるということがようやくわかってきました。

顔認知に困っている人達への教育や支援が、今後の課題だということが分かりました。今日は、ありがとうございました。

